

小中一貫教育推進だより

つながる



平成 25 年 11 月 20 日 No. 31

十日町市教育委員会学校教育課



成果を受け止め、自信を持って推進を

学校教育課 指導管理主事 島田 敏夫

朝夕の冷え込みが増し、紅葉がきれいな季節になったと思っていたところ、急な寒波による初雪となり驚いています。また、例年、初雪前には雪下ろしの雷が鳴るのに今年はちょっと変だなと感じながら、大雪になればと祈っています。

さて、2学期に入り 10 月に 2 回、11 月に 1 回、県外の市町議会議員による小中一貫教育に関する視察がありました。全国的に少子化による学校の統廃合が進む中で、十日町市が進める小中一貫教育の「小中一貫校をつくることなく、小学校と中学校のつながりを良くすることによって 9 年間を見通した教育を進めていること」に関心を持たれていることを感じました。

そんな中、読売新聞（10/28 付）に全国 100 校の小中一貫校を調査対象にした「小中一貫校の手応えと苦勞」の記事で以下の主な成果と課題が記されていました。

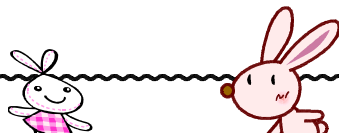
成果	・ 成果を感じている（94校） ・ 「学力の向上」（30校） ・ 不登校や問題行動につながる「中 1 ギャップ」の解消（23校） ・ 小中教員が互いに学び合うなどして「指導力が向上した」（22校） ・ 異学年との交流行事等を通じ「中学生の成長」（30校）、「小学生が中学生にあこがれを持つ」（24校） ほか
課題	・ 小中一貫校に課題がある（85校） ・ 小中合わせると行事が増え精選が必要（20校） ・ 多忙化（打ち合わせや会議が多い。小中で共通理解の時間の確保が難しい。）（18校） ・ 中学生がいるために小学校高学年がリーダーの役割を発揮できない（13校） ・ 時間割の編成が難しい（11校） ・ PTAや後援会組織の統合（9校） ほか

この結果から、小中一貫校ではほとんどの学校が成果があるとしながらも、小中一貫校について課題があるのとらえています。また、実施校全てにおいて同様の成果と課題があるとはいえないことが伺えます。このことから十日町市の取組は、モデル中学校区の取組の成果で、各地区とも「不登校児童生徒の改善」が挙げられており、このことは自信を持ってよい大きな成果です。学習面でも、各中学校区において、教職員の話し合いや学び合う機会を通じ、共通する授業改善の視点、学習の約束や家庭学習の取組を進め成果が表れています。このことは、11 月に小中学校各 1 回の授業を見させてもらい、どの授業も課題提示、課題追究場面、かかわりの中で考えを練り上げる場面等が工夫され、児童生徒が意欲的に学ぶ姿から感じ取ることができました。こうした取組が 9 年間の中で継続して進められていくことで、確かな学力が児童生徒に身に付くものと期待しています。

課題については、「多忙化」「行事の精選」など共通する苦勞があります。しかし、小中一貫校には、小中一貫校ゆえに生じる課題があるようです。逆に、そうした課題がないことは、十日町市が小中一貫教育を推進する上でのメリットととらえることもできます。

こうしたことから、モデル中学校区の 3 年間の試行や各中学校区の取組の中で見られた成果は、教職員の皆さんの知恵や努力、工夫から生まれた自信を持ってよい大きな成果です。

本格実施まであと 4 か月余りとなりました。各中学校区では、来年度に向け多忙の中準備を進めていただいています。何かに取り組むとき、取組に価値を見い出して進むか、不安を感じて進むかでは大きな差が生じます。十日町市の未来を担う子どもたちの豊かな成長のために、十日町市の小中一貫教育の意義を受け止め、教職員一人一人が自信を持って取り組むための準備をお願いします。



しゅっちゅう一貫 耳より情報

〈中学校区訪問から その3「子どもの主体性」〉

課題について、教師の側でこうした方がいいといくら子どもに働きかけても、効果はとかく表れにくいことが多いものです。

松之山中学校区では、生活習慣の改善について、どうしたら良いか学校保健委員会で大人の委員と共に、小学校高学年と中学校1年生で話し合いをします。自分たちで主体的に考えたことをやってみる。子どもにとって自分事になった時、その取組は真剣になります。

このような視点からの取組の工夫が、市内のあちこちで実践されています。



しゅっちゅう一貫 先進地に学ぶ

〈教職員の交流・1日体験〉こんな交流も実践されています!!

市内の中学校区では、様々な子どもたちの交流活動が工夫されています。「互いの学校文化の理解を深める」「専門性を生かした指導をする」「中1ギャップの解消」等の効果を期待し、子どもたちだけではなく、教職員の交流も試みられています。

夏の研修会の際のアンケートに、「6年担任が次年度に中学校へ異動するような十日町市独自で小・中交流人事が行えないか」という提案がありました。希望者の確保や免許等の関係で、即実施というわけにはいきませんが、今後の課題でもあります。

今回は、人事異動レベルの交流ではなく、既存の職員のままで、小中の文化・学びのスタイル等相互理解を進める取組事例を紹介します。小学6年生の中学校体験はよく耳にしますが、教職員の異校種体験はユニークな取組だと思います。

埼玉県八潮市では、平成18年度に小中一貫教育の導入を決定し、「既存の施設を生かした施設分離型」で進めてきました。八潮市共通の取組を3つ掲げ、そのうちの1つが「教職員ジョイント研修会」の実施です。この研修会は、小学校職員が中学校で、中学校職員が小学校で1日体験をする異校種体験研修です。平成23年度から開始し、本年度で3年目の取組です。市内の10小学校、5中学校の計15学校の職員が、毎年研修をする仕組みです。学校毎に2人が参加するので3年で各校6人、計90人がこの研修の体験者ということになります。授業参観や各種行事等の単発的経験とは異なり、丸1日を異校種校で過ごし、小中学校の職員が共に授業や活動をしたり参観したりする体験は、大きな驚きを伴う新たな発見も多く、相互理解が深まっているそうです。

この取組は、私たちの十日町市でも中学校区で決定すれば、今すぐにでも実践することができる取組だと思います。

八潮市共通の取組

○教職員ジョイント研修会

・教職員合同研修会

(夏季休業中、中学校ブロックごとに情報交換、分科会を実施する)

・八潮市ジョイント教室

(小学校6年生が、進学する中学校で授業や部活動体験または見学を行う)



小中一貫教育にかかわる12月の活動予定



毎月ここに掲載している活動予定は、どなたでもその活動を見ていただけるように紹介しているものです。時間を見つけて、ぜひお出掛けください。その際には、当該学校へ一声掛けてからお出掛けください。

日時	＜内容＞	会 場	見 どころ
6日（金） ＜会議＞ 15:30～16:45		中里中学校	・中里中学校区では、小中一貫教育の評価計画及び年度末までの推進日程等についての推進会議を行います。
11日（水） ＜会議＞ 16:00～16:45		中里中学校	・中里中学校区の特別支援教育班では、子どものニーズに即した継続支援を目指し、個別の指導計画の充実に取り組んできました。これまでの取組の振り返りと今後の対策を検討する班会議を行います。
12日（木） ＜会議＞ 15:00～16:45		田沢小学校	・中里地区子ども健全育成委員会では、重点的に取り組んできたあいさつ運動の取組を中心に、本年度の取組の振り返りや改善策について話し合いを行います。
24日（火） ～1月7日（火） ＜家読運動強調旬間＞		拡大中学校区	・拡大中学校区では、毎月第3日曜日に「家読の日」を設定して取り組んでいます。今回はその強調旬間です。
25日（水） ＜会議＞ 11:00～11:50		松代中学校	・松代中学校区では、4つのプロジェクトを編成して小中一貫教育に取り組んでいます。今回は、各プロジェクト毎に、これまでの活動の反省と次年度に向けた改善策についての話し合いを行います。
26日（木） ＜研修＞ 13:30～16:00		橘小学校	・川西中学校区では、全職員で学校環境適応感尺度：アセス（※）を活用して学級の人間関係づくりを推進するための研修を行います。

※ ASSESS：Adaptation Scale for School Environments on Six Spheres の略